

R3.9.27 朝日村農業ビジョン検討会(第2回) 会議録 1/9

開催日	令和3年9月27日	時間	13:30～ 15:30	場所	役場大会議室
会議	朝日村農業ビジョン検討会(第2回)				
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・朝日村農業ビジョングループワークの結果等について ・課題に対する取り組みや方針について 				
出席者	別紙名簿のとおり(欠席者:清沢美智穂)				
<p>あいさつ(小林村長)</p> <p>忙しいところお集まりいただきましてありがとうございます。感謝申し上げます。</p> <p>今、朝日村の基幹産業は農業でございますが、正直、村の行政として、農業にあまり力を入れてこなかったというふうに私は思います。構造改善事業等々でこの40年50年、ハードウェア的に、換水施設を利用したり、ほ場整備を行ったり、使いやすい大きさにしたり等やっている反面、いよいよ温暖化になって、作物が非常に作りにくくなってきている。また前にもデータでお示しをしておりますが、農家の人口が減ってきて高齢化になっている。そして、優良農地も余っているような状況であります。そういうことに対して、10年20年30年先はどういう風な農業になっていき、どういうふうな状況になってくるということは前々から予想が付いていた話だと思います。ただそれに対して、具体的に行政としてどんなことをしていったらいいかというところが、私は後手に回ってきている感があるというふうに思っております。そういう背景を元に、10年20年30年先の朝日村の農業をどのようにしていったらいいのということの共通認識を我々で持って、色んな面に行政として投資をしていく必要があるだろうと思っております。</p> <p>例えば、今JAさんが主でやっている、作った野菜をどのようにして売っていくか、どのようにして作るか、それは継続していく話だと思うんですが、今後は、非常に作りにくくなってきたという面、人がいないという面では、人をどうやって確保するか、また新しい作物にどのように展開していくか、そういったところの方針を作って、それに向かってちゃんとした投資をしていくということが、私は大事だというふうに思っています。儲かる農業じゃなければ、または魅力ある農業じゃなければ誰も今後農業をやろうなんて言う人は絶対出てきませんから、儲かって魅力があって楽しいような農業にするためにどうするかということの皆さんの認識合わせをしていただきたいというふうに思っています。</p> <p>昨今、隣の芝生ということがありますが、いろんなところで新しい儲かる農業に関する事業を見聞きすると、うらやましく思います。そういったところを、隣の芝生じゃなくて、我々の芝生として、ぜひ現状認識のすり合わせを行っていただいて、どこに投資をしていくか、みんなで決めていきたいと思っておりますので今日もよろしくお願い致します。以上でございます。</p>					

協議事項

- (1) 農業ビジョングループワーク結果について(高山担当係長 説明)
- (2) 課題に対する取り組みや方針について(課題の説明後、取組方針等について討議)

課題に対する取り組みや方針についての意見交換

<農業を維持する>

二茅克仁委員

これ以前に、外部の人が朝日村で農業をするための取り組み等がわからないため、具体的な方針がわからない。なにか支援策等がありますか。

清沢課長

村の支援策は全くない状態です。その中で委員の皆さんにどのような支援策が必要だと思うのか、ご意見をいただきたいと思います。

実際、今後、若い後継者にやっていただければいいのですが、そうじゃないご家庭があったりして、その農家仲間の皆さんは将来どういうふうを考えているのか等、意見交換をお願いしたいです。

小林村長

私も農家です。ずっと会社勤めで、今こういう状態で、農地はたくさんあるんですが、作っていないという状況です。今は作っていただいている人に何とかお願いをしているんですが、将来はどうするのかと考えたときに自分ではどうにもできないので、誰かが大きな農業法人をやってくればいいなあとと思います。農地を農地として潰すわけにはいかないの、誰か大規模に若い人たちがやってくればいいなというような思いがあります。

上條靖志委員

私は、一応後継者として、農業はやっていないですがサラリーマンの息子がいます。ただ、現在の農業の状況では、安定したサラリーマンを辞めて農業一緒にやってくれとはどうしても言えない状況です。それは収入面がほとんどだと思っんです。

私たちの場合は、今農業機械は揃っておりますので、子供が40歳くらいになったらロータリーくらいかけて土地の管理はしてほしいなと思っています。それもできないということになれば、今村長さんが言った通り、どなたかに貸すという方向しかないのかなあとと思います。

また、新規就農者の場合は、農機具などを買ったりするというのはたぶん資金的に1番問題になってくることじゃないかと思いますが、そういうところを何か村で独自の制度資金があればいいのかな、と思っています。

清沢課長

確かに村では新規就農者のために今資金などの制度も無いので、そういったものがあれば継承なども考えられると思っています。実際ほんとに後継者の居ない皆さんは、人に貸して行けばい

いという思いもあるかもしれませんが、法人など大きな組織やっっていこうとか、将来はみんな集まってやっっていこうという話にはならないのでしょうか。共同でやるという気持ちはあるけれど、そういうことを話す場所がないとおっしゃる方もいらっしゃいました。そのへんはどうでしょうか。

下田直美委員

今国の方の「人・農地プラン」の関係で、各地域で農家の人たちを集めて会議をして、これから先どういうふうにやっっていくか話し合いを行ってくれというのが出ています。コロナの関係で、集団でやるのは控えて、我々農業委員会もまだ実施してないんですが、それを利用すればそういう場を持てると思います。

中村守一委員

高齢化と、これからやっっていく人が少ないという課題は私のところもそうです。子供にいつもお願いして手伝ってもらおうということはあるんですが、会社員ですので、今後どういうふうにするのかなということは話しています。将来的に考えた時、私の場合はハウスを持っていますが、経験がなければなかなかできないのが現実です。パイプの組み立てや水道設備など、機械の取り扱いもそうですが経験上やっておかないとなかなか難しい問題があって、後継者にその部分を傳承していくというのは非常に難しいです。そして、私たちみたいに小さい農家でやっていると小物の機械が結構要るんです。

それに加え、耕作放棄地が増えています。圃場が曲がっていたり、三角の地だったり、非常に耕作しにくいところでどうやってその圃場を生かしていこうということで、常日頃何を作ったらいいのか研究しながらやっっていくというのが、耕作放棄地を減らしていくことにつながります。それと共に放棄地は手が入りにくいので、リースなりで小型の機械を導入し労力の軽減を図って、将来的には、組合や法人化など集まってすればいいんですけど、みんなで楽しく農業をやるような環境作りが1番大事ではないかという風に思っています。

議会を聴いていても、有機農法だとか、SDGsの環境の問題点、気候の問題など議論されていますが、信州には農作物認証制度もあります。やはりそういうものを少し取り入れながら、有機販売に向けていく努力も必要じゃないかと感じています。有機の場合も勉強しなければいけません。販売ルートもそうですけれど、科学的にちゃんと裏付けされた有機作りをしないとなかなか成功しないでしょう。

小林村長

今、数名の方からご意見頂いている中で、共通していることは「機械」ということが1つあるのかなと感じました。機械に対する支援を考えてみると、例えば、白菜キャベツレタスっていうような葉野菜をやろうとすると人が出てきた場合、計算してみると、機械投資に2000万、3000万も初期投資が要るなど。今まで朝日村の機械化がどう進んできたかと言うと、最初は耕運機の時代から、だんだん隣の方がトラクターを使って、それを見てトラクターを1台買って。10年20年という30年という長い年月の中で機械化を一步一步してきたんですね。今、じゃあすぐに新

規就農者が何もなくて来て、隣の畑で機械化しているのに、今更手でなんて手出来ないでしょう。新規就農者に来てもらえると大変ありがたいですが、現実的に考えて無理だと、今私は思っています。ですからそこには、新規就農者3人4人で1つの機械を使いまわしする工夫を入れるだとか、または機械化に対しては公的な支援制度をつくって、その支援を受けるだとか。やはり何か1つの仕組みを作らないと新規就農者も呼べないなと思っています。これはレタス農家。

それと、今生坂のほうで高級ブドウが盛んに栽培されているなと思っているんですが、例えば、ブドウを作るという場合だったら、朝日にはもうブドウを作る技術がありませんから、県の専門の人たちから講習を受けてやるような何かを作らなくてはいけないし、ブドウの場合だったら、レタスを作るような大型機械への投資が少なくなるかもしれません。一つ一つそういったものを行政支援として見つけて行く必要があるなという風に考えてみます。そんな切り口から皆さんにご意見どうでしょうか。

下田直美委員

こちらの委員会の前に事務局から、若い人で新規就農を目指している方がいると報告がありました。その若い方が、レタスの専門の人と現在一緒にやっているそうです。これはいいことだと私は思いました。一緒に働いて、それから覚えるのもいいと思います。

機械の問題ですが、私の家の近くにやめた人がいますが、ブームやトラクターを一式農協とかに下取りをさせたと思うんです。そういうものをちゃんとリストで把握しておけば紹介もできますし、新規の人たちも半年ぐらいで買えると思いますので、そういうやり方もあると思います。

<農業を経営する>

上條典泰委員

品種という部分については、今はもう試作部会を使って作って一生懸命に研究していただいて、その面で大きな成果が出たと思っています。なかなかそういう組織はこの周辺にはないので頑張っていて、地域にとって大きな力になっているだろうなというふうに思います。今、暑くなっているということで、経営のスタイルは今までどおりではいけないということなども含めて、ブロッコリーの予冷施設を作ったり、そのほかにも何人かの人に違った作物を作ってもらったりとか、色々研究はしています。

先ほど新規就農者の話がありましたが、ここ数年で朝日の新規就農者が1番多かったのは30億円を超える販売が何年か続いた時ですね。なので、やはり農協としてはお金を取れるっていうところを見せてかなきゃいけないとか、そういうところを作っていかなきゃいけないということで、それが我々の1番の仕事だなという風に思うし、そのためにも若い人たちに、アイデアを出してもらって、そういう状況を作れるようにしていきたいなというふうに思っています。あと、新規就農者と言っても、当時は朝日の中の人がたくさん入ってくれたんですけど、やはり私はそのところを村には取り組んでほしいなと思います。地域おこし協力隊の人も一生懸命頑張ってもらっていますし、新規の人には、国や県なんかもそうですけれど非常に手厚い制度がありますね。反面、地元で就農した人に対しては、なかなかそういう部分がないですね。なので、やはり地

元に残って地元で頑張ろうという人には、なんらかの補助をしてもいいのかなと思います。今ハイランドとしては、松本市が2年間、新規就農する人たちに向けて月7万円の補助をして、農協のほうで技術の指導もしたりするというのがあるって、今後は松本市以外の自治体も一緒に協力してほしいんです。ぜひその辺も考えていただきたいというふうに思います。

耕作放棄地についても、朝日村は標準からいくとそんなに多いほうではないと思います。小谷村は農地の面積が1000haか2000haという数字なんですけれど、誰も小谷村に行ってそんな広い農地があるなんて思わないですね。結局みんな山の中の小さなところだったり、屋敷の周りだったりするので、こういう耕作放棄地も単純に40haというところに驚かずに、中身を見てみて、どこを絶対残さないといけないんだというようなことを考えて、限られた農地を振り分けてやってほしいなという風に思いますね。

島田ひとみ委員

家族経営という、それぞれ家々のやり方があると思うんですが、やはり価格がいい時に箱数を出せると、経営的にも安定してくると思うんです。ただ今年の場合は、やはり春の大風や長雨に叩かれて値段は良くても箱数が出ないです。なおかつ農業をやっていると、二作やるので土作りとかにそれなりの経費かかります。そこらへんで経営難に悩む部分があります。気候の変動によって今までなかった病気なども出てきていますが、長い目で見た時に農業を変える余力もありません。かといって対策を打たなければ何も変わりません。その辺も経済によって動かされているように最近感じています。

上條靖志委員

家族経営で生産性が上がらないということなんすけれども、アルバイトだとある程度の期間雇用しないといけないという形がありますが、収穫のときだけお願いしたいとか、定植の時だけお願いしたいというような人材バンク的なものはやっているのでしょうか。

清沢課長

村では、朝日アグリチャレンジセンターの中で援農という仕組みでやっています。50件くらいの農家さんから希望があり、昨年だいたい14.5件の農家さんから依頼がありました。やってくれるサポーターさんは、実際10名程度の方が集まってくれているんですが、少しお年を召した方や女性が多く登録していただいている部分があって、重労働を希望されている農家さんとのマッチングがうまくいっておらず、大きな農家さんの要望に合った人材が集まらない状況です。

いま、登録自体は少ないのですが、やはりサポーターさんの必要というのはおっしゃられているのでしょうか。

太田和美委員

今年、ハローワークでお願いして来ていただいた方がなかなか仕事まで結びつかないんです。援農については、アグリの青柳さんと何回かお話しさせていただきましたが、やはり応募もないということで今回は援助してもらえなかったんです。

また、今年春から今まで作業してみて、人も雇ってはいるんですが、春の風、長雨などの廃棄処理などにバイトさんが入ってくれています。被害に対する仕事なので経費的にはとてもマイナスです。それにバイトさんなのでとても気を使います。家族が気を使ってその時間分気持ちよく働いてもらうってことをしなければとても続けてもらえるような形ではないんですね。家族経営とはまた違う形ですが、人を雇うことの難しさをとても感じています。

うちも息子が今年うちに入って農業をやりたいと言った時もあったんですけど、今の農業では、一緒に農業をやろうとはとても言えずに、東京に就職させました。作ったものを手間ひまかけてマルチの上に植えてもお金にならない切なさ。とても息子たちにやってほしいと私は言えません。

二茅克仁委員

規模拡大して法人化するっていうことについてですが、僕も規模拡大してやってこうかなと思った時に、どうしてもリスクが先に思い浮かんでしまって進めないというところがあります。今の僕の世代の若い人達は、今現状の面積でそんなに生活に苦労しているわけでもないですし、なんならそれなりの生活をしていると思います。法人化で成功されているしなのさんの意見を聞いて、若者がもし増やしてくところにメリットを感じれば法人化も増えていく気がするので、ぜひお話を伺いたいです。

上條惣一郎委員

家族経営ではなく、最初から友人と起業したみたいな形だったんですけど、ものすごいリスクでした。何もない状態からなので、路頭に迷うんじゃないかという。たまたまいい年が3年続いてラッキーで今いる感じです。

役場や国の補助とかはすごく弱くて、唯一よかったのは「青年給付金」でした。資料に書いてあることについては全てお金がかかります。お金をばらまくくらいやらなければ意味がないと思うのでなかなか難しいでしょうから、朝日村として、農業にこういう支援をしていきますよという何かあってもいいような気がするんですよ。なので、経営規模であつたりとか、税金だったり優遇されるであつたりとか、新規であつたらこのぐらいの補助を出すなど。村として、10年後にもイメージできるような、すごく太い方針がなければいけないと思います。お金がやはり絡むことは、気持ちだけではなかなか進まないのかなと思います。

法人については、人を雇うというのは本当に難しく、僕らもかなり悩んで、出入りがすごい激しいですよ。忍耐というような感じで何とか回してはいますけれど、正社員で通年給料払うってすごく大変で、正直もうみんな奴隷のように働いてくれている感じです。みんな10年後どうなるんだろうなという不安ももちろんあるので、決してお勧めはしないですね。節税などのメリットもありますが、ある程度規模をやらないとメリットがないので、大規模にやらざるを得なかったという感じです。

資料の1番2番は1番難しいかと思うので、ここは役場として何ができるかというのを先に書いてもらうとありがたいかなと思います。

<朝日村としての農業>

二茅克仁委員

民間が作っている人材紹介のマッチングアプリみたいなのを使おうと思っていて、そういうものを使うと、農家が助かるほかに、やはり都会の人を農業体験に呼び込め、さらに新規就農につながる可能性もありますよね。しかし農家がそのようなシステムを使うというのは、住み込みの施設なども用意しなくてはいけないため、すごく敷居が高い気がします。行政として、このような既存のものを活用することは、0から施策を考えるよりもやりやすいと思いますし、ぜひそういうような切り口から考えていただけるのもいいのかなと思います。

武田修委員

農業法人を始めて20年過ぎていますが、野菜を作って非常に苦労しました。現在はそば一本で栽培しております。やはり通年雇用は経費が掛るので、蕎麦屋をやりながら農業という形になっています。

体験農業も試みて、25年くらい続けてお客さんはかなり付いて、毎年都会から来てそば体験などもしていかれたんですけど、蕎麦屋をやっているから持っているようなもので、それだけで収益を上げるというわけにはいかないです。

耕作放棄地が耕作地になるような何かを、タジマモーターさんでやっていただけるといいのかなと思います。中山間地で今後どうしたらいいかというのはなかなか難しい課題だと感じています。

中村守一委員

ブランド品ということで、何か考えてく必要があるんじゃないかと私は考えています。

私は10年かぼちゃを作って、何とかブランドでおいしいものを作ろうということでいろんな経験をしながら、あるいは勉強しながら、品種などにこだわりながらやってきました。おかげさまで非常に評判も良くて、直売所を中心にいろんな形で出しています。村のイメージで、全国展開するものを何らかの形で作ってほしいなというふうに感じています。

<村の農業施策・国の動向>

島田ひとみ委員

うちではほとんど主人が経営をやっています。でも、仕事等の都合などの確認は私にも確認したりしてみんなで話し合っていますので、女性が表立ってやらなくてもいいのかなと感じてしまいます。家族経営協定などありますが、協定を結びますという声が上がってこないのは、やはりその家々の考え方があるんだと思います。

女性は仕事の他に、やはり家事や育児があるので、農業に関しては男性にやってもらいたいと思います。女性が主になって頑張っているところを他の市町村でも見ますが、すごいなあと思う反面、「薬物を大量に」という朝日村の農業だと女性が主になって大きくやることはできない

じゃないかなと感じます。

また、以前聞いた講演会で、子供たちに向け農業を通した食育学習のようなものがされているという話を聞き、とてもいいことだと感じました。朝日もそういうことができる環境だと思うので、ぜひそういう環境の中で子供たちを育てていくということについても考えていただけたらなと思いました。

<全体を通じて>

曾根原加奈子委員

ここへ嫁いできて、20年になるんですが、当時はすごく涼しかったのを覚えています。今は実家の名古屋と変わらないような気がします。それだけ20年で気候変動があるので、同じ作物を作っても、形が悪いなどいろいろ弊害が出ていると思います。何十年も作ってきた方がいきなり変えるのは無理な話だと思うので、どうしたらこれからも作っていけるかというのを、農協さんなどで研修していかなければいけないのかなと思います。

耕作放棄地ですけれども、放棄をしている土地の面倒を地権者さんに見てもらえるような何かがあればうれしいです。畑を借りるのは男の人が多いですから、周知の仕方の工夫があればと思います。

また、テレビでやっていたんですが「緑の食料システムの戦略」を見ていたら、食品ロスについてやっていました。出荷調整で山になったものも食品ロスの一つだそうです。食品ロスをなくすという観点からも、なにか出荷調整に対する対策が欲しいです。

武田修委員

耕作放棄地について、乗用型の草刈り機を入れてみました。耕作者の許しを得て草刈りに入る人がいるようにしたり、どうしてもものところは行政が面倒を見るなど、耕作地を常に耕作できる状態にしておいていただけると助かります。

中村守一委員

有機農業については、私たちも勉強をすることが大切だと思います。認証制度を使うにも、制度について詳しく理解し、確証を持った栽培が出来なければいけないと思います。ですからぜひ、講師を呼んでの講習会などを開催していただけるとありがたいです。

<農村支援センターから>

小林補佐

10年後20年後30年後どうするんだという中で、一つの指針になるのが「人・農地プラン」国の新しい「緑の食料システムの戦略」だと思います。その中で、人がいないという課題に対してどうしていくかなどいろいろな課題が見えてきます。

一つの事例として、生坂村ではブドウ農家さんと建設業者で人手を共有してやっている事例があります。検討会の中で、そのような新しいことへの挑戦なんかも事務局で調べて、委員さんにまたご意見をいただいてもいいのではと思います。

穂谷技師

お話の中に、研修制度というのがあったと思いますけれど、参考として、「里親制度」というものがあります。2年間、新しく都会から来たような方を専門のベテラン農業者のところで2年間勉強してもらって、独り立ちしていただくという制度でございます。

また、お話聞いていても、やはり人が減っていくと荒廃農地について問題になってくると思います。どこでもそうだと思うのですが、ある程度の大規模化が必然的に必要になってくると思います。その辺をどうしていくかが1つの基本テーマになってくるのではないのでしょうか。

有機農業について、県の認証制度がございますが、残念ながら今の実態を見ると必ずしも高くは売れないというようなことがあると思います。ただし、昨今の気象改善という部分を考えれば必要な部門でもあると思いますけれど、やはり簡単にはいかないと思いますので、朝日村としてどのように進めていくか検討する必要があると感じました。

その他

次回の検討会は11月29日(月) 13:30 予定

以上